

# 早生品種の穂肥時期が近づいています

## ～「みずかがみ」は6月23日頃から～

- 5月中旬の高温で生育が早まり、分けつが多くなっています。
- 登熟期における栄養不足を回避するため、**穂肥は適期に必要な量**を確実に施用しましょう。
- 幼穂長や茎数・葉色を確認し**、穂肥の施用時期と施用量を調整しましょう。



写真：幼穂形成期のイネ

### 品種ごとの穂肥の目安

品種	施用時期	施用量
みずかがみ	幼穂長 1 mm	窒素成分 3 kg/10a (大豆跡：1.5～2.1 kg/10a)
コシヒカリ	幼穂長10mmと その1週間後	(通常) 各窒素成分 2 kg/10a
		(分けつ過剰の場合 ※ ) 穂肥 1 回目：窒素成分 1 kg/10a 穂肥 2 回目：窒素成分 3 kg/10a

※茎数の目安(60株植え:25本/株、50株植え:30本/株)

- 基肥一発体系では原則穂肥の施用は必要ありません。**  
ただし、「みずかがみ」で茎数が25本/株以下の場合、収量確保のために窒素成分で2 kg/10a程度施用しましょう。
- 環境こだわり農産物では合計化学肥料窒素成分 4 kg/10a以内を順守してください。
- 出穂前後各3週間(目安：幼穂形成期～)は常時湛水して**玄米の品質低下を軽減しましょう。



**熱中症にご注意ください！！**

予防のポイント

①暑い時間帯の作業を避ける

②こまめな休憩と水分補給

③単独作業を避ける

④熱中症対策アイテムの活用